

平成30年度日本小児外科学会  
第5回定例理事会議事録

日 時：平成 31 年 1 月 24 日（木） 11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス

出席者：越永従道（理事長）、田尻達郎（副理事長）、八木 實（理事・会長）、山高篤行（理事・副会長）、奥山宏臣、廣部誠一、臼井規朗、野田卓男（以上理事）、猪股裕紀洋、仁尾正記（以上監事）、黒田達夫（前理事長）、藤野明浩（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、橋詰直樹（庶務委員補佐）、浦尾正彦（財務会計補佐）、松藤 凡（第 34 回秋季シンポジウム会長）、米倉竹夫（第 35 回秋季シンポジウム会長・利益相反委員会委員長）、米田光宏（施設認定委員会委員長）、小野 滋（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員会委員長）、村上 聡（事務局）

欠席者：金森 豊（理事）、菱木知郎（庶務副委員長）、仁田尾慶太（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、田尻達郎副理事長、奥山宏臣理事とした。
2. 平成30年度第4回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。
3. 審議事項

1) 第 56 回学術集会について（八木会長、橋詰庶務委員補佐）

八木会長および橋詰庶務委員補佐より資料に基づき、プログラム等について報告・提案され、承認された。演題募集を昨日締め切り、560件の応募があった。評議員会についてはNPOと一般社団法人とを別に開催する必要はなく、同時開催で問題ないことが確認され、次回理事会までに庶務委員会で計画を詰めることとした。

日時：平成 31 年 5 月 23 日（木）、24 日（金）、25 日（土）

会場：久留米シティプラザ

テーマ：継往開来～小児外科学の継承と発展～

2) 第 57 回学術集会について（山高副会長）

山高副会長より資料に基づき、日程や会場、テーマ、プログラム等が提案され、承認された。

日時：平成 32 年 5 月 21 日（木）、22 日（金）、23 日（土）

会場：都市センターホテル

テーマ：子どもが最初、いつだって

3) 第 34 回秋季シンポジウムについて（松藤前秋季シンポジウム会長）

松藤前秋季シンポジウム会長より資料に基づき、演題数や参加者数、次回理事会で決算報告を行う予定であると報告された。

4) 第 35 回秋季シンポジウムについて (米倉秋季シンポジウム会長)

米倉秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され、了承された。会期中のスケジュールの都合上、委員会については必要最低限の開催にしてほしいと依頼がなされた。

日時：平成 31 年 10 月 19 日 (土)

会場：大阪国際交流センター

テーマ：小児集中治療

5) 第 36 回秋季シンポジウムについて (廣部次期秋季シンポジウム会長)

廣部次期秋季シンポジウム会長より、準備状況について報告があり、了承された。

日時：平成 32 年 11 月 7 日 (土)

会場：一橋講堂

テーマ：手術の新しいデバイスと工夫

6) 庶務委員会審議事項 (藤野委員長)

藤野委員長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

7) 財務会計委員会審議事項 (浦尾補佐)

浦尾補佐より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

8) 各種委員会審議事項

(1) 機関誌委員会 (奥山担当理事)

奥山担当理事より資料に基づき、HP に掲載している「医学研究および研究発表における倫理的問題に関する見解および勧告」ページが、平成 16 年 4 月付けの文書の情報が古く混乱を招く恐れがあるため、平成 26 年 12 月付で掲載されている情報だけを HP に載せてはと提案があり、承認された。

(2) 国際・広報委員会 (越永担当理事)

越永担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

- ・ホームページ掲載規定について、以下の様に更新する。

(追加)

11.

各種委員会等の依頼により掲載した情報の改定・削除については以下の手順でおこなう。

11-1：学術集会案内、厚生省、日本医学会などの公的機関からの情報の開示を除き、

期間が経過し、内容が古くなったと思われる情報、不要になったと思われる各種委員会等の情報については国際広報委員会が改定・もしくは削除を各種委員会等に提案できる。

11-2：改定の提案を受けた各種委員会等は必要に応じて速やかに改定し、第10項に準じて掲載の承認をうける。日付や数値などの軽微な改定は承認を省略できる。

11-3：削除の提案を受けてさらに掲載の継続を要望する各種委員会等は、第10項に準じて掲載の承認をうける。

11-4：各種委員会等より改定、継続の要望がない情報については国際広報委員会の判断で削除できる。

(更新) 削除、追加

2-1.

~~一般の皆様、医学生の皆様のページ~~一般向けの情報の開示は原則として公開前に、理事および監事の承認を要する。承認方法は第9項に定める。

・各種委員会にリニューアルするホームページについてのアンケートが集まり、各委員会の意向を汲んで作業を進めることとした。

### (3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

・平成32年度診療報酬改定要望の進捗状況

10月25日に開催した委員会で要望項目を選出し、外保連に提出した。また、日本外科学会を通して要望を提出し、日本外科学会の共同提案となる要望項目が決定した。

・漢方製剤（100大建中湯）効能追加（公知申請）

ヒルシユスプルング病並びに類縁疾患患者における術後腸管麻痺、イレウスを効能・効果に追加することに関する「申請書」ならびに「要望書」を日本小児外科学会から提出するにあたり、提出予定書類を委員会でメール審議し、承認した。

### (4) 教育委員会（山高担当理事）

山高担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

### (5) 悪性腫瘍委員会（田尻担当理事）

田尻担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

### (6) 学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

・全国規模の学術アンケート調査に関する規定

全国規模の学術アンケート調査に関する規定に「依頼者（あるいは調査研究担当者）は、研究成果の要旨を会員が理解し利用しやすいようにグラフおよび表などにまとめて、できるだけ早く委員会に報告しなければならない。委員会はこの研究成果をホー

ムページなどへ掲載するなど、会員へ還元できるようはかる。」と書かれているが、複数の調査で報告と HP 掲載がなされていないと報告され、調査研究担当者に依頼を行う必要があるが、最初に誰がこの規則を説明するのか、誰が結果報告を依頼・再請求するのか、どの程度強制力があるのかなどについて、検討がされ、結果報告の義務のペナルティについては継続審議とし、アンケート終了後何ヶ月後までに学会に対して報告するフローにし、理事会承認後に申請者に伝える様式を定めて今後運用する事とした。

(7) 倫理・安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(8) データベース委員会（山高担当理事）

山高担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

- ・災害対策マニュアルの改訂や訓練

実際の初動訓練でマニュアルの検証と改訂を進めていく。

訓練としては、何らかのテーマ（NICU 使用不能など）を決めて状況設定をし、それに対応をしていく。

また、災害時の対応について、災害の中心となった地域において比較的緊密な各地方会などの地域単位で、地方会事務局などの施設が中心となって実際の支援について調整し、さらなる支援が必要な際には本部対策本部が支援に入るなどを検討した。

- ・PALS 講習会の今後

今後も 5,000 円/人の補助をした上で継続することが承認された。

(10) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案があり、承認された。

- ・女性委嘱評議員

委員会で第 24 回評議員選挙の結果、評議員当選者 315 名の内 10%の 31 人が女性評議員の目標数であると報告があり、当選した女性の方が 26 名のため、5 人を委嘱することとした。

女性立候補者の内、当選に漏れた方をどのような基準で女性委嘱評議員として選考するかについて検討を行い、指導医資格、委員会活動、会員歴の順で内諾を確認する順番を決め、内諾の際は委員会活動をしてもらうことを条件として確認を行うこととした。

(11) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(12) 規約委員会（越永理事長）

越永理事長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

- ・日本外科学会の演題応募手続きに準じる事とし、第 56 回学術集会時の評議員会と、2 日目の朝の枠に会員に向けて変更点について委員長が説明を行う。

(14) NCD 連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

- ・これまで春の学術集会時・秋の PSJM 時の年 2 回、NCD 小児外科領域会議を行ってきた。主たる目的は、NCD の目的や意義の説明、具体的な入力方法の説明などであるが、これまでの活動によって NCD-P については学会員の一定の理解が得られ、当日の会員からの質問も少なくなっている。NCD 連絡委員会内では、NCD 領域会議は年 1 回（学術集会時）の開催でも十分ではないかとの意見があり、今後は年 2 回の開催から年 1 回の開催に変更することとした。

(15) ガイドライン委員会（越永理事長）

越永理事長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(16) 利益相反委員会（米倉委員長）

米倉委員長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

9) 選挙管理委員会審議事項（藤野委員長）

藤野委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・第 24 回評議員選挙

有権者数 1,974 名、総投票数 1,765 票、立候補数 368 名（内、女性 45 名、12.2%）、当選者数 315 名（内、女性 26 名、8.25%）、落選者数 53 名（内、女性 19 名、35.8%）、当選者には電子メールにて当選の旨を連絡済み。公表は委嘱評議員を決定してから 4 月に行う予定。

10) 臨床効果データベース整備事業について（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、現状の報告及び提案があり、今後の進め方について承認された。

11) 日本小児期外科系関連学会協議会について（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、本学会と日本小児期外科系関連学会協議会との名簿に齟齬あったと報告があり、本会側の名簿に掲載されていなかった先生方を本会の名簿に掲載することについて承認された。

#### 4. 報告事項

##### 1) 専門医制度委員会報告（米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長、村上事務局）

米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長、村上事務局より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・昨年12月27日に外科関連専門医制度委員会が開催され、日本専門医機構より、サブスペシヤルティ領域認定の実態調査のため、近日中に各サブスペシヤルティ学会へ調査票が送付される予定であると報告があり、外科の6サブスペシヤルティ（消化器外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科，乳腺，内分泌外科）については、本年9月末にそれぞれのカリキュラム整備基準を提出済みであり、当該の調査票の提出自体は必要だが、日本専門医機構では既に“内定”という位置付けである。と報告がされた。技術認定を中心とした3階部分の領域についても、将来的な日本専門医機構の認定を見越して、現時点でサブスペシヤルティとしての申請を行うことが望ましいとのことであった。

・上記調査票（レビューシート）が日本専門医機構から届き、専門医制度委員会で回答案を作成し、研修施設不在県を10→2に変更する点と、設問内容が不明確な箇所を最後のアンケート欄に記載した上で提出することが承認された。

・新専門医制度システムの件、年次報告書の画面の確認が行われた。問い合わせが多い箇所に手引きにも書かれている情報をポップアップや注釈を付けて入力しやすくした点等が報告され、現在テスト期間中で3月末にオープン予定を目指している。

・新システム立ち上げに際して、年次報告の締め切りを従来の3月31日から今年は例外的に延ばす運用とし、施設責任者宛に年次報告の締め切りが延びるアナウンス文章を委員会で作成し、メール配信することとした。

・新専門医制度で研修される方のためのロードマップを作成することとなった。

・今年度は認定施設、教育関連施設を新たに認定し直すため、全施設に対して認定施設・教育関連施設A・教育関連施設Bの中から申請を出してもらうことが確認された。

・研修開始宣言については、会員ログイン後にボタンを押す能動的な運用を考えていると報告があり、初めての試みのため、始める際には会員に対してアナウンスすることとした。

##### 2) 理事長報告（越永理事長）

(1) 第14回メール審議報告（NCDデータを利用した研究成果公開について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(2) 第15回メール審議報告（新規の手術・手技の導入・実施支援に向けて望まれる制度に関する調査について）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(3) 第16回メール審議報告(さいたま医療ものづくりフォーラム2019に係る後援依頼について)について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(4) 第17回メール審議報告(NCD データ利用研究の論文投稿について)について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(5) 第18回メール審議報告(「子どもの自殺防止対策リーフレット」への名称掲載許可について)について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(6) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」vol.171」を受領した。

(7) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「「がんばれ！」vol.172」を受領した。

(8) 神奈川県医師会からの寄贈本「神奈川医学雑誌 VOL.45」を受領した。

(9) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.357」を受領した。

(10) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.358」を受領した。

(11) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.359」を受領した。

(12) 難病医学研究財団からの寄贈本「難病研究財団ニュース No.49」を受領した。

(13) 日本医療安全調査機構からの寄贈本「腹腔鏡下胆嚢摘出術に係る死亡事例の分析」を受領した。

(14) 日本医療安全調査機構からの寄贈本「栄養剤目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析」を受領した。

(15) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER11月号」を受領した。

(16) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER1月号」を受領した。

(17) 日本小児感染症学会からの寄贈本「小児の臓器移植および免疫不全状態における予防接種ガイドライン 2014」を受領した。

(18) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターno.188」を受領した。

(19) 日本医学会からの通信文「第2回日本医学雑誌編集者会議ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウム資料」を受領した。

(20) 日本新生児成育医学会からの通信文「理事長就任のご挨拶」を受領した。

(21) 日本医学会からの通信文「第30回日本医学会総会 2019 中部登録推進に関するお願い」を受領した。

(22) 日本医学会からの通信文「臨床研究法の施行等に関する Q&A について(その5)」を受領した。

(23) 日本医学会からの通信文「臨床研究法の対象となる臨床研究等の事例集について(その1)」を受領した。

(24) 日本医学会からの通信文「国内未承認のいわゆる発毛薬の服用が原因と考えられる健康被害の発生について」を受領した。

(25) 日本医学会からの通信文「平成30年度末における施行前臨床研究に係る実施計画の提出について」を受領した。

(26) 日本医学会からの通信文「アリロクマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改定について」を受領した。

(27) 日本医学会からの通信文「ニボルマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイ

ドライン（非小細胞肺癌，悪性黒色腫，頭頸部癌，腎細胞癌，古典的ホジキンリンパ腫，胃癌及び悪性胸膜中皮腫）の一部改正について」を受領した。

(28) 日本医学会からの通信文「デュルバルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌）の一部改正について」を受領した。

(29) 日本医学会からの通信文「医師による死因等確定・変更報告の取扱いについて」を受領した。

(30) 日本産科婦人科学会からの通信文「着床前診断開催のご案内」を受領した。

(31) 日本医学会からの通信文「再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行」を受領した。

(32) 日本医学会からの通信文「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」等の一部改正について」を受領した。

(33) 日本医学会からの通信文「再生医療等の安全性の確保等に関する法律に関するQ&A（その4）について」を受領した。

(34) 日本医学会からの通信文「臨床研究法における臨床研究の利益相反管理について」を受領した。

(35) 日本医学会からの通信文「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）愛称決定について」を受領した。

(36) APSA からの通信文「JSPS-Request for a Historical Poster for APSA 50th Anniversary」を受領した。

(37) 日本医学会からの通信文「NIPT 指針遵守について」を受領した。

(38) 日本小児感染症学会からの通信文「小児臓器移植および免疫不全状態児への予防接種ガイドライン」改訂について」を受領した。

(39) 日本医学会からの通信文「アテゾリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌）の一部改定について」を受領した。

(40) 日本医学会からの通信文「ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン等」を受領した。

(41) 日本小児科学会からの通信文「日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン」改訂検討ワーキンググループの委員の推薦について（依頼）」を受領した。

(42) 「サブスペシャルティ学会理事長との協議 議事録（案）」を受領した。

(43) 「第63回外専委+平成30年度第2回専門医制度議事録（案）」を受領した。

(44) 「外科関連専門医制度委員会資料」を受領した。

### 3) 総合調整委員会報告（田尻委員長）

田尻委員長より資料に基づき、以下の点について検討を行ったと報告がなされた。

- ・ 専門医制度関連・学会会員システムに関して
- ・ NCD 連絡委員会補佐に関して
- ・ NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の申請の件
- ・ 小児外科医の実績評価はどうあるべきか
- ・ 小児外科関連研究会の今後について
- ・ 卒前・後教育を含む学生、若手医師のリクルート・育成のための具体的方策



#### 4) 庶務委員会報告（藤野委員長）

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2018年12月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,832名（うち海外3名）、評議員314名、名誉会員55名（うち海外7名）、特別会員69名（うち海外1名）の合計2,270名である。なお、1名復活申請があったとあわせて報告された。

#### 5) 財務会計委員会報告（浦尾補佐）

浦尾補佐より、2018年度決算（暫定）の報告がなされた。

・4月1日から11月30日までの正会員会費納入率は85.6%、評議員会費納入率は96.2%である。

・評議員会資料のページ数の増大と、臨時評議員会が開催されたため、資料代として印刷費が予算をオーバーしている。

・来年度の予算はNPOと一般社団法人と2本立ての予算の作成を予定している。

・WebEx導入により、会議費と旅費が抑えられている。

・第55回学術集会、第34回秋季シンポジウムの決算が組み込まれていない状況だが、11月30日時点の収入合計47,645,621円、支出合計34,369,939円である。

#### 6) 各種委員会報告

##### (1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

・投稿論文の内訳（平成30年1月～平成30年12月投稿）

新規投稿92編、採択51編、不採択2編であり、一昨年に比べ投稿数が減っている。

##### (2) 国際・広報委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

##### (3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

##### (4) 教育委員会（山高担当理事）

山高担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・第35回日本小児外科学会卒後教育セミナー及び第10回日本小児外科学会内視鏡手術セミナーの準備

日時・場所・講師が決定し、テキスト作成を進めている。第1日目の終了後に講師と受講生、受講生同士の交流を図る目的で懇親会の開催を予定している。申込みについては例年通りHPから行なっている。

・平成30年度日本医学会分科会用語委員会報告

平成30年12月18日日本医師会大講堂にて開催の同委員会に出席した。ICD-11の国内で

の適用、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ報告、「奇形」を含む医学用語の置き換え提案などについて討議された。

- ・ ICD-11 にかかる和訳の意見照会について

現時点では和訳が充分になされていない為、ICD 専門委員会による翻訳作業が完了後、教育委員会にて改めて検討する方向である。

「具体的な和訳案」については、当委員会としては現状では特に意見は無く、理事会の方針に従う意向である。

- ・ 手術見学プログラムについて

日本内視鏡外科学会教育委員会・山口委員長より依頼があった、手術見学プログラム開催希望等については、本会とは直接関係が無い為、受け入れる側の各施設の判断を尊重することとした。

#### (5) 悪性腫瘍委員会（田尻担当理事）

田尻担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

#### (6) 学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

#### (7) 倫理・安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より資料に基づき、倫理・安全管理委員会便り「内視鏡手術のお話」を作成したと報告がり、ホームページに掲載することとした。

#### (8) データベース委員会（山高担当理事）

山高担当理事より資料に基づき、東京大学藤代準先生が実施している NCD データを利用した急性虫垂炎に関する研究について報告がされた。

- ・ 「 Abdominal drainage after appendectomy for complicated appendicitis in children.: a nationwide propensity-matched study」として 52nd PAPS への演題応募と「小児の複雑性虫垂炎に対する虫垂切除術にドレーン留置は有用か?」として第 56 回日本小児外科学会学術集会への演題応募について、それぞれ理事会での審議の結果、各学会への演題応募が承認されたことが報告された。（注）日本小児外科学会への演題応募に際しては二重発表であることを明示して演題応募を行う旨の連絡あり。

- ・ NCD データ利用研究の論文投稿について理事会審議で承認された「Laparoscopic versus open appendectomy for acute appendicitis in children: A nationwide retrospective study on postoperative outcomes」の World Journal of Surgery (WJS) 誌への投稿の結果が reject であったことより、同内容にて Journal of Gastrointestinal Surgery (JGS) 誌への再投稿についての審議依頼があり、最終的に理事会審議で再投稿について承認されたことが報告された。

#### (9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(10) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(11) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・移行期支援ガイドブックに新たに追加すべき疾患群の検討

実態調査で成人診療科のため作成したほうがよいと考えられる疾患群を列举してもらう設問があるので、今後それを基に検討することとし、2020年第57回日本小児外科学会学術集会で実態調査の結果を報告する方針とした。

(12) 規約委員会（越永理事長）

越永理事長より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(14) NCD 連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(15) ガイドライン委員会（越永理事長）

越永理事長より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(16) 利益相反委員会（米倉委員長）

米倉委員長より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

7) その他

(1) PSI（仁尾監事）

仁尾監事より、PSIに掲載されている論文が本会で発表された演題かどうか分からない点、JSPS prize を作ったので、受賞された論文はどのような形で記録に残るようにした方がいいのではと提案がされた。

(2) 一般社団法人化の準備（村上事務局）

村上事務局より、理事・監事の先生方には、印鑑証明書を取得の上、本理事会で配った登記関係書類に自宅住所と名前を記入した上で、レターパックで返送してほしいと依頼がされた。

8) 次回定例理事会日程の確認（越永理事長）

次回定例理事会は平成31年3月1日（金）11：00～16：00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

副理事長 \_\_\_\_\_

理事 \_\_\_\_\_